

目的 各種衣料革の中で、豚皮は国内で生産される唯一の皮であり、比較的廉価に入手できるにもかかわらず、従来の豚革に対する風合い、剛軟性に関する通説により、衣料用革としての需要が少ない。そこで、豚革について被服の最終製品に要求される外観上の形態の美しさに寄与する諸特性の中で、特に剛軟性、曲げ反ばつ性について検討した。

方法 試料は、同一条件で製造された衣料用豚革（スエード）20枚を用いた。JIS に準じて、化学分析、吸放湿度を測定した。背線の位置でheadからtailまでを3等分し、headより左右にA・B・Cブロックとし、さらに、各ブロックの2等分した線と、その部分の幅の2等分した線が交差した点を中心に、JIS L 1096に準じ、ドレープ測定用試料を採取した。温度 25 ± 3 °C、湿度 16 ± 2 %、 65 ± 2 %、 88 ± 2 %の3条件下で、各試験片について厚さ、質量、見掛比重、ドレープを測定し、平面・側面ドレープ係数を重量法で算出した。さらに、同試験片を使用しスライド法、ガーレ法により測定した。

結果 各湿度条件下で、厚さ、質量は、B・A・Cブロックの順に値が大であり、見掛比重は、A・B・Cブロックの順に値が大である。各ブロックとも、質量に湿度の影響が認められた。平面・側面ドレープ係数は、同じ傾向である。各湿度条件下で、A・B・Cブロックの順でドレープ係数が大きく、これは、曲げこわさと自重による垂下状態が小さいことを示す。また、各ブロックで、乾燥状態でのドレープ係数がもっとも大きく、剛軟性、曲げ反ばつ性ともに湿度の影響が認められた。